

# 問 歴史館と福祉の連携をどう考えるか

## 教育長 連携は重要だと考えている

**問** 2004年に「くねっぶ歴史館」が開館し、本町開拓から使用された貴重な資料が收藏、展示活用されている。また、高齢者保健福祉や介護に関わる今後の課題で見れば、本町も認知症や単身世帯の増加が予想される。

**答** 歴史館が保存している本町の歴史、文化芸術、民俗、産業、自然科学などに関する貴重な「町民の記憶の資料」を有効活用し、高齢者が興味関心を持つような歴史館と福祉事業の連携は重要だと考えている。

**福祉サイドでも歴史館との連携の考えは**

**問** 第8期訓子府町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画で「認知症総合支援事業」ということが示されているが、福祉サイドでも歴史館と連携した「回想法」という取り組みについての考えは。



くどう ひろき 議員  
工藤 弘喜

何はともあれ一日も早いコロナの収束を

**答** 認知症地域支援・ケア向上事業で「みんなのカフェ かなえーる」を毎月開催している。昔の資料などが数多く展示されている歴史館で展示品に実際に触

れることで違った刺激を与えることができる。期待感も考えられることから、歴史館を活用した開催に向け検討をしていきたい。



くねっぶ歴史館

**「回想法」とは**

懐かしい生活道具などを用いて、かつて自分自身が体験したことを語り合い、過去に思いをめぐらすことで脳を活性化させ、気持ちを元気にする援助の手法です。

# 問 地方創生臨時交付金未計上額はいくらか

## 町長 予算未計上額は3095万円

**問** 新型コロナウイルス対応として国から9714万7千円が交付されているが、予算未計上額はいくらか。

**答** 本町に配分された交付金に対する予算未計上額は3095万円である。

**問** 今後、交付金の活用をどのように考えているか。また、予算提案はいつになるのか。

**答** 関係機関からの情報や窓口などでの町民の相談内容に耳を傾け、町民の生活支援、事業の経営継続支援、経済対策や新たな生活様式への対応などの視点に立って検討し、町民の皆さんが安心して生活できるように交付金の活用に努めたい。

予算提案の時期については今後の状況を見ながら、9月定例町議会、場合によっては臨時議会も含め適期に提案したい。

